

# 第1学年国語科学習指導案

1 単元名 くらべてよもう「じどう車くらべ」

2 指導の考え方

## 子どもの実態

本学級の子ども達は、一学期に「なぞなぞあそび」で「問い」という形を、「くちばし」で「問い+答え」のくりかえしで構成された文章を読んできている。本来ならこの後「みつけた」で「問い+答え+答え+答え」で構成された文章を学ぶことになっているが、今回は単元を入れ替えており、一学期の学習以来の説明的な文章の学習になる。

さらに、本単元では「じどう車くらべ」で学んだ文章の形式を活かして、自分でも好きな自動車を説明する文を書く学習をするようになっていく。しかも、新出の片仮名や片仮名の長音、促音なども出ている。一学期までに、主語と述語に注意しながら三程度の文章は書いてきているが、まだ、文章を書くことに慣れていないのが現状である。片仮名の指導と合わせて、何をどう書けばいいのか、丁寧に指導していきたい。

## 教材の特質

本教材「じどう車くらべ」は、子ども達にとって身近な自動車を題材にしている。そのため、挿絵や経験とつなぎながら読み進め、書かれている内容の大体を理解していくことができやすいと考える。

文章の特質としては、前書きで子ども達の関心をいろいろな自動車に誘い、その後、「しごと」と「つくり」という二つの事柄の因果関係を「バスやじょうよう車」「トラック」「クレーン車」に分けて、同じ文型で繰り返し説明している点があげられる。「しごと」と「つくり」を視点に読み進めることで、説明が「しごと」のまとまりと「つくり」のまとまりから構成されていることや「そのために」が果たしている役割に気づくことができるであろう。

また、単元名「くらべてよもう」にあるように、それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を比べることで、自動車は仕事に応じたつくりになっていること、さらに、「くちばし」を想起することで、事物は役割に応じた構造になっていると気づくことができ、他の事物の見方にも発展していける教材である。

## 指導にあたって

本単元は、まず「じどう車くらべ」で自動車の仕事とつくりの因果関係を読み取り、その学習を活かして他の自動車を説明する簡単な文章を書くことが求められている。そこで、読むことの言語活動例ウ「事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと」と書くことの言語活動例ウ「身近な事物を簡単に説明する文章を書くこと」を関連させながら指導することが大切であると考えられる。

そこで、指導にあたっては、「しごと」と「つくり」の視点をもたせて、両者にはつながりがありそうだと予測させ、「大事な言葉や文を書き抜く」「ことばを比べて読む」「動作化」などの手立てを取りながら、書かれている内容の大体を具体的に読み取っていきけるようにしたい。

また、「じどう車くらべ」では、最後に「はしご車」の仕事とつくりを調べて書くことを呼びかけている。ここでは、これまで学んできた「ついでに」「なっています」などの文末表現や「じょうぶなうで」などの比喻表現を整理して、それらを活用しながら全員が「はしご車」の仕事とつくりについて簡単な説明の文章を書けるように工夫したい。

さらに、自分が興味を持った自動車について説明する文章を書く際には、図鑑や資料などを安易に書き写すのではなく、「しごと」と「つくり」の視点から情報を集め、これまで学んだ文型を活用して、自分なりの表現で書くことを大切にしたい。そのために、「しごと」と「つくり」を関連させた資料等を準備し、子ども達が活用しやすいよう配慮したい。

3 単元の目標

三種類の自動車について「しごと」と「つくり」の関係を考えながら、書かれている内容の大体を読み取ることができる。

「じどう車くらべ」の文型を使って、「しごと」と「つくり」を関連させながら、自分が興味を持った自動車について、簡単に説明する文章を書くことができる。

4 単元の学習計画（全12時間）

次時	学 習 活 動 と 内 容	指 導 上 の 留 意 点
読み通しのめあて	<p>12</p> <p>題名「じどう車くらべ」と冒頭の課題文から、じどう車の「しごと」と「つくり」を比べて読んでいくための読み通しのめあてを生み出す。</p> <p>1 題名から内容を予測し、話し合う。</p> <p>2 題名から出た疑問をもとに、冒頭を読む。            (1)冒頭を音読する。            (2)挿し絵と叙述から分かることを出し合う。            (3)課題文を視写して、何を比べるのか話し合う。</p> <p>3 冒頭の課題文に着目し、読み通しのめあてをつくる。            読み通しのめあて            それぞれのじどう車は、どんなしごとをしていて、そのために、どんなつくりになっているのか、くらべてよもう。</p>	<p>指導上の留意点</p> <p>「くだもの」を例に、「さくらんぼ」「みかん」など一つのもを表すことばとまとめたものを表すことばがあることをおさえ、自動車には、いろいろな種類があることをおさえる。            挿絵と文をつないで読み、「いろいろな自動車」を確かめることができるようにする。            課題文を音読して、課題文の文型「どんな～か。」の書かれ方をおさえるようにする。            課題文が二つあることに気づき、「しごと」と「つくり」を比べることを確かめる。            挿絵のタクシーや郵便車を例にして、「しごと」と「つくり」を比べる必要感を持たせる。            子どもの発言を「しごと」と「つくり」に分けて板書して、「しごと」と「つくり」の意味を具体化する。</p>
予見・学習計画	<p>2・3</p> <p>12</p> <p>1 全文を読み、それぞれの自動車のしごととつくりがわかる文にサイドラインを引く。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 全文を音読する。            (1)範読を聞く。            (2)音読の練習をする。            (3)新出漢字の練習をする</p> <p>3 自動車の「しごと」と「つくり」について書かれている文にサイドラインを引く。            (1)どんな自動車を比べるか確かめる。            (2)「しごと」にサイドラインを引く。            (3)「つくり」にサイドラインを引く。</p> <p>しごととつくりについて予見を話し合い、読み確かめていく視点を生み出す。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 前時に書きまとめた予見を発表する。            (1)バスやじょうよう車            (2)トラック            (3)クレーン車</p> <p>3 友達の予見と比べて見直す。</p> <p>4 それぞれの自動車の仕事とつくりを読み確かめる学習計画を立てる。</p>	<p>前時に生み出した読み通しのめあてを掲示しておき、本時のめあてを意識づける。            教師の範読の後、一行ずつ 挿絵ごと、一斉列 個人 一斉というようにスモールステップで音読の練習をさせる。</p> <p>どんな自動車がでてきたか、挿絵と文をつないで話し合い、 で囲ませる。            しごとについて書かれている文に赤線、つくりについて書かれている文に青線を引かせる。            初めてサイドラインを引くので、文の右側に文字にかからないように引くことを確かめる。</p> <p>全文を拡大コピーして板書に貼り、代表児が赤や青の線をどこに引いたか視覚的にわかるようにする。            赤線を引いた三つの文を音読して、共通する「しごと」というキーワードに気づくようにする。</p> <p>自分がどこに線を引いたのかその都度確かめさせ、友達の考えとどこが違うのか聞き合う態度を徹底する。            それぞれの自動車の仕事とつくりのことで、もっと知りたいな、どうしてかなと思うことを疑問として引き出していく。</p>
読み	<p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>バスやじょうよう車の仕事とつくりについて挿絵と文をつないで読み確かめる。</p>	<p>学習計画表をもとに、めあてを意識づける。</p>

<p>確 か め</p>	<p>2 本時場面を音読する。</p> <p>3 バスとじょうよう車の仕事について話し合う。 (1)どんな人を何人くらい乗せるか (2)どこで乗せるのか</p> <p>4 バスとじょうよう車のつくりについて話し合う。 (1) つくりの文を視写する。 (2)座席が広く作られているわけを話し合う。 (3)大きな窓がたくさんあるわけについて話し合う。</p> <p>5 本時学習をふり返り、読み取りプリントに書きまとめる。</p>	<p>生活経験を想起させ、挿絵とつないで読み、同じ人を乗せる仕事でも、バスと乗用車を比べて仕事の違いを確かめるようにする。</p> <p>「つくってあります。」「あります。」の文末に気をつけて視写をさせ、つくりの文の説明の仕方に気づかせるようにする。 挿絵で座席や窓を確かめながら、生活経験とつないで、つくりのよさに気づかせるようにする。 読み確かめた仕事とつくりをくわしく書きやすいような読みとりプリントを準備し、家の人に伝えようという意欲を高める。</p>
<p>読 み 確 か め  本 時</p>	<p>5 / 12</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">トラックの仕事とつくりについてバスやじょうよう車と比べて読み確かめる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 本時場面を音読する。</p> <p>3 トラックの仕事について話し合う。 (1)どんな荷物を運ぶのか</p> <p>4 トラックのつくりについて話し合う。 (1)つくりの文を視写する。  (2)重い荷物を乗せるトラックのタイヤがたくさんついているわけを話し合う。</p> <p>5 バスやじょうよう車との違いを話し合う。</p> <p>6 本時学習をふり返り、読み取りプリントに書きまとめる。</p>	<p>前時とのつながりをおさえ、学習計画表をもとにカードで意識づける。</p> <p>挿絵とつないで荷物を確かめ、段ボールの中にどんな物が入っているのか、生活経験とつないで想像させる。</p> <p>「なっています。」「ついています。」の文末表現をバスや乗用車のつくりの文末表現と比べて視写をさせ、つくりの文の説明の仕方に気づかせるようにする。 挿絵でタイヤの数を確かめながら、「重い荷物をのせるトラック」の叙述に着目させて、つくりのよさに気づかせるようにする。 バスやじょうよう車は、なぜ荷台が広くないのか、トラックにはなぜ窓が多くないのか、問い返していき、それぞれの仕事と関連させたつくりになっていることに気づかせる。</p> <p>読み確かめたしごととつくりをくわしく書きまとめやすいように、チョークの色を変えて板書する。</p>
<p>読 み 確 か め</p>	<p>6 / 12</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">クレーン車の仕事とつくりについて挿絵と文をつないで読み確かめる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。</p> <p>2 本時場面を音読する。</p> <p>3 クレーン車の仕事について話し合う。 (1)どんなものをつりあげるのか (2)どうやってつりあげるのか</p> <p>4 クレーン車のつくりについて話し合う。 (1)つくりの文を視写する。</p>	<p>前時とのつながりをおさえ、学習計画表をもとにカードで意識づける。</p> <p>「おもいもの」とはどんなものか、挿し絵を手がかりに考えさせる。 トラックの仕事とくらべて、「はこぶ」仕事と「つりあげる」仕事の違いに音読や動作化を通して気づかせるようにする。 擬人化されている「うで」や「あし」がどこを指しているのか挿し絵で確かめるようにする</p>

	<p>(2) じょうぶなうでがつくってあるわけを話し合う。 (3) しっかりしたあしがついているわけを話し合う。</p> <p>5   トラックとの違いを話し合う</p> <p>6   本時学習をふり返り、読み取りプリントに書きまとめる。</p>	<p>動作化を通して「のびたりうごいたりする」動きを確かめることができるようにする。</p> <p>同じ重いものをあつかっているのに、なぜ、トラックにはじょうぶな足がないのか問い返していき、それぞれの仕事と関連させたつくりになっていることに気づかせる。 読み確かめたしごととつくりをくわしく書きまとめやすいように、チョークの色を変えて板書する。</p>
<p>読 み の ま と め ・ 読 み 方 の ま と め 書 く こ と へ の 活 用</p>	<p>7 / 12</p> <p>これまでの学習をもとに、はしご車の仕事とつくりを説明する文を書く。</p> <p>1   本時のめあてを確かめる。 2   本時場面を音読する。 3   はしご車の仕事について考える。。 4   はしご車の仕事を説明する文を書く。 5   はしご車のつくりについて考える。 6   はしご車のつくりを説明する文を書く。 7   自動車図鑑を作る意欲を高め、次時の学習につなぐ。</p>	<p>学習計画表をもとにカードで意識づける。</p> <p>音読をして、「しごと」と「つくり」が書かれていないことに気づかせ、自分たちで考えて書かなければならない必要感を持たせる。 生活経験を想起させ、挿し絵とつないで、どんな仕事をしているのか話し合い、「火事」「高い所」などのキーワードを押さえるようにする。 これまで学習した仕事を説明する文型を掲示しておき、それを使って書くことができるようにする。 前時に学習したクレーン車の挿し絵と比べて似ているところや違うところを話し合い、つくりを具体化していくようにする。 これまで学習したつくりを説明する文型を掲示しておき、それを使って書くことができるようにする。 昨年の1年生が作った「自動車図鑑」を紹介して、自分たちも次の1年生に図鑑を見せたいという意欲を高め、次時の学習までに自分が説明する自動車を決めて、図鑑や絵本で調べておくようにする。</p>
<p>読 み の ま と め ・ 10 ・ 11 ・ 12 / 12</p>	<p>8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 / 12</p> <p>前時の学習をもとに、自分が選んだ自動車の仕事とつくりを説明する文を書く。</p> <p>1   本時のめあてを確かめる。 2   自分が選んだ自動車の仕事とつくりを説明する文を書く。 3   それぞれが書いた説明文を、グループで読み合い、互いの文のよいところを伝え合う。</p>	<p>できるだけ多くの自動車の資料を用意して、子どもたちが調べやすいようにしておく。その際、これまで学んだ文型で書きやすいように、仕事とつくりがきちんと分けて、書かれている資料を準備しておくようにする。</p> <p>これまで学習した仕事とつくりを説明する文型を掲示しておき、それを使って書くことができるようにしておく。</p>

5 本時 ( 5 / 1 2 ) 読み確かめ

6 本時の目標

トラックの仕事とつくりについて、文と挿絵をつないだり、文末表現に気をつけたりしながら、内容の大体を読み取ることができる。

バスやじょうよう車との共通点や違いを話し合ったりすることで、事柄の順序に沿って、比べながら読む読み方を身に付けることができる。

7 本時の授業の考え方

前時までに子どもたちは、バスやじょうよう車の仕事やつくりについて学習計画で出た疑問をもとに、挿絵と文をつないだり、言葉の表し方に気をつけたりして、書かれている内容の大体を読み取ってきている。本時は、トラックの仕事やつくりについて、前時に学習したバスやじょうよう車と比べて、学習計画で出た疑問をもとに読み確かめる学習である。

本時の授業では、まず、前時場面を想起させて本時への意欲と見通しを持たせる。掲示している学習計画をもとに、本時学習で確かめることをおさえ、本時のゴールを明確にしておくようにする。

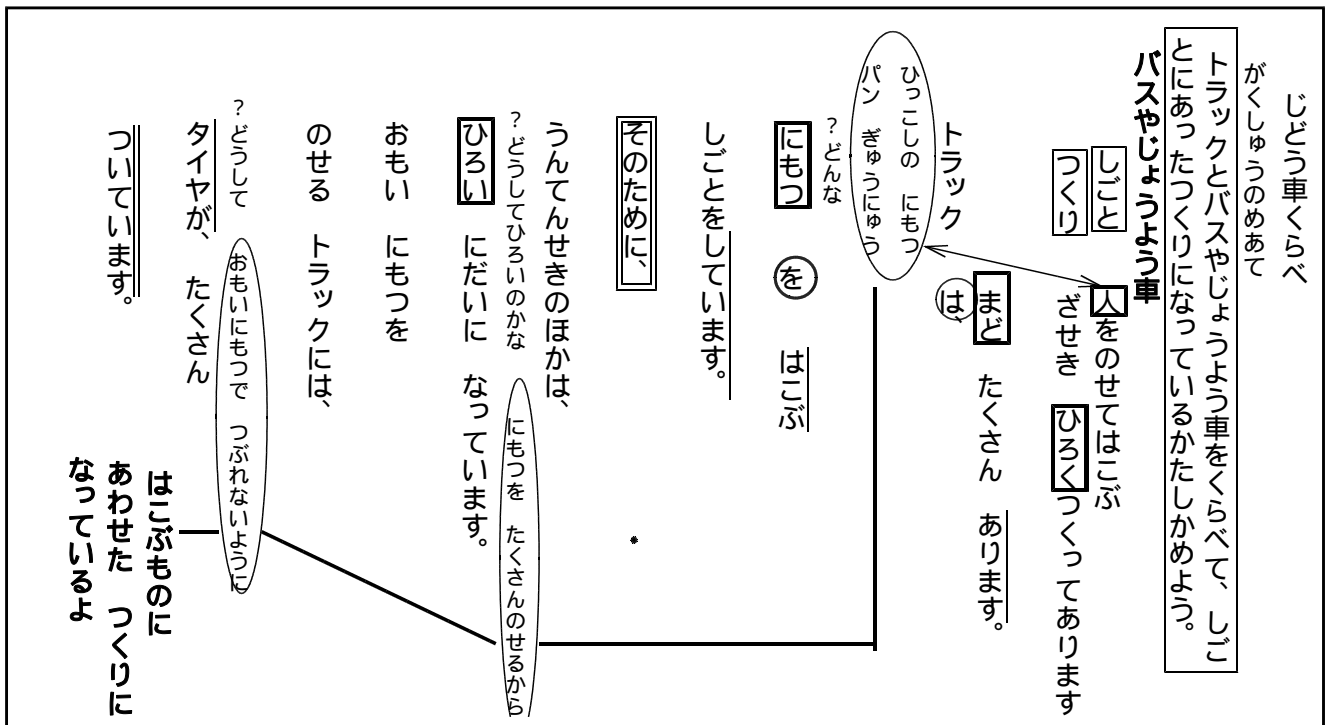
次に、本時場面を音読させる。そして、仕事とつくりの文を全員がとらえたうえで、トラックの仕事について話し合いをさせていく。まず、どんな荷物を運ぶのか、挿絵を手がかりにしながら考えさせていき、トラックの仕事の具体的にとらえさせたい。

そして、つくりについては、荷台がどうして広くなっているのか、挿絵と文をつないで、バスやじょうよう車と比べて、じっくり考えさせたい。また、タイヤがどうしてたくさんついているのか、重い荷物という言葉とつないで確かに読み取らせたい。

さらに、読み取ったトラックの仕事やつくりとバスやじょうよう車の仕事とつくりを比べて読んでいく。その際、バスやじょうよう車は、なぜ荷台が広がっていないのか、トラックはなぜ窓がたくさんついているのかを問い返していき、それぞれの自動車の仕事とつくりが関連していることに改めて気づかせていきたい。

最後に本時で読み確かめたことを自分の言葉で書きまとめさせる。その際、「今日くわしくなったことを家の人に伝える」という相手意識や目的意識を持たせて手紙として書かせるようにして、意欲を高めていきたい。

8 板書計画



## 9 本時の展開

<p>1 前時を想起し、本時学習のめあてを確かめる。 学習のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>トラックとバスやじょうよう車をくらべて、しごとにあったつくりになっているのかたしかめよう。</p> </div> <p>2 本時確かめる箇所を音読する。</p> <p>3 トラックの仕事について話し合う。</p> <p>(1) どんなにもつを運ぶか話し合う。 ・挿し絵を手がかりに</p> <p>(2) バスやじょうよう車と比べる。</p> <p>4 トラックのつくりについて、話し合う。</p> <p>(1) にだいが広がっているわけを話し合う。 ・挿し絵を手がかりに</p> <p>(2) 三文目を視写する。</p> <p>(3) タイヤが、たくさんついているわけを話し合う。</p> <p>(4) バスやじょうよう車と比べる。</p> <p>5 本時学習をふり返り、読み取りプリントに書きまとめる。</p>	<p>本時で確かめることをはっきりさせて、一時間の学習のゴールを子どもたちが意識できるように、学習計画と板書を使って丁寧に確認する。</p> <p>一度目は、口形、句読点、正確さに気をつけながら読ませる。 本時のめあてを意識させ、バスやじょうよう車との共通点や違いを考えさせながら読ませる。</p> <p>挿し絵に着目させ、生活経験とつないではこぶものを想像させる。</p> <p>挿し絵のどこを見るのかわかりやすく指示する。</p> <p>バスやじょうよう車の仕事を音読して、同じ「運ぶ」仕事をしていることと運んでいるものが違うことをおさえる。</p> <p>挿し絵で荷台を確かめ、どうして荷台が広がっているのか、話し合う。 バスやじょうよう車のように、ざせきのところを広くしてはいけないのか考えさせ、仕事の違いからつくりが違っていることをおさえる。</p> <p>教科書やプリント、筆箱の位置、書く姿勢を徹底する。</p> <p>重い荷物をのせるトラックには、どうしてタイヤがたくさんついているのか、具体物をもとに話し合い、タイヤが少ないとつぶれてしまうことに気づかせる。</p> <p>バスやじょうよう車にもたくさんついていたものがあつたことを想起させ、なぜトラックには窓がたくさんついていないのか仕事と関連させて、隣と相談をさせて、話し合う。 まどの役割について、前時を想起させ、「にもつ」を運ぶトラックに「外の景色がよく見える」必要があるのか考えさせていくようにする。</p> <p>くわしくした箇所を色分けして囲んだり、学習プリント工夫したりして、全員が書きまとめることができるように板書を工夫する。</p>
--	--

